

(様式3) 休眠預金等活用事業 支援対象活動計画書 (詳細)

2023年度 活動支援事業
ジャパン・プラットフォーム 災害に対応できる民間支援団体の増加と基盤強化事業

※記入に当たっての注意事項: 入力スペースは適宜ご調整いただいてかまいません。

団体情報

団体名	(法人格)団体名(略称) NPO法人ひのくにスマイルプロジェクト						
団体概要	設立趣旨書の目的・事業内容なども含めて記載してください 近年問題になっている孤立、孤食の防止。また熊本地震を経験しお互いに助け合うことの大切さを痛感し希薄化している地域のつながりを強化したいとの思いで2019年8月より任意団体として活動を開始しました。私達は地域の安心できる居場所づくりとして、こども・地域食堂、フードバンク、こども食堂ネットワーク、子育て支援相談援助、災害救援活動などの支援活動を通して多角的な支援を実施し、行政や社協、学校など官民間問わずお互いに協力しながら活動を実行しております。						
これまでの主な事業 ※適宜、行を増やしてください	主な事業名	碑益者属性		碑益者数			
	こども・地域食堂事業	児童・保護者		年間約4000名			
	こども食堂ネットワーク事業	こども食堂運営者		16団体			
	フードバンク事業	食の支援が必要個人・団体		169団体			
	不登校子育て相談援助事業	児童・保護者		年間約300名			
	災害救援事業	被災者全般・被災地		1500名			
法人設立日	2024.4.18	会員数	10	役員数	4	職員数	2
団体所在地	熊本県菊池市泗水町吉富300-61						
当該プログラムのご担当者	ご氏名	メールアドレス(PC)		電話番号			
※複数名の場合、行を増やしてください	茶木谷与和	t.cyaki@hinopro.jp		090-5943-3331			
	(団体での役割、非営利分野での活動年数、災害支援のご経験(あれば)など) 代表理事 本格的な災害救援活動は2011年の東日本大震災からスタート 熊本県での活動は2019年から非営利団体を作り活動をスタート						

貴団体の活動分類はどれにあてはまりますか？(該当するものに○)		
	A. 非災害支援団体(災害支援経験なし)	
	B. 非災害支援団体(災害支援経験あり)	
○	C. 災害支援団体	
災害支援経験ありの場合 (上記B.C.に該当) ※複数あれば行を増やしてください	対応災害名	東日本大震災・熊本広域大水害・広島市豪雨土砂災害 熊本地震・西日本豪雨
	実施内容	炊き出し・避難所支援・食材提供・家屋解体・泥だし
	実施期間(日数・月数等)	東日本大震災 195日 熊本広域大水害 10日 広島市豪雨土砂災害 5日 熊本地震 250日 西日本豪雨 10日
特記事項など(何かあれば)	上記災害までは組織的な支援というより個人的な支援の側面が大きい	
災害支援経験ありの場合 (上記B.C.に該当) ※複数あれば行を増やしてください	対応災害名	2020年熊本豪雨
	実施内容	炊き出し・避難所支援・食材提供・家屋解体・泥だし こども支援・避難所での夏祭り
	実施期間(日数・月数等)	150日
特記事項など(何かあれば)	この災害よりチームを組み活動を開始 NPO法人カタリバとの協力開始	
災害支援経験ありの場合 (上記B.C.に該当) ※複数あれば行を増やしてください	対応災害名	2023年九州北部豪雨
	実施内容	炊き出し・避難所支援・食材提供・家屋解体・泥だし こども遊び場支援
	実施期間(日数・月数等)	50日
特記事項など(何かあれば)		

災害支援経験ありの場合 (上記B.C.に該当) ※複数あれば行を増やしてください	対応災害名	2024年能登半島地震 奥能登豪雨
	実施内容	炊き出し・避難所支援・食材提供・家屋解体・泥だし こども遊び場支援
	実施期間(日数・月数等)	90日
特記事項など(何かあれば)	現在も定期的に活動中	

支援を受けたい内容(該当に○)		課題意識や要望について
○	1.規程類の整備	規程類は整備段階であり、専門的な意見から使える規程にしていきたい
○	2.災害に関する事業計画立案	災害発生時は臨機応変に対応してきたため特段事業計画立案がないため今回しっかりと計画的に実施していきたい
○	3.災害支援に関わる社会的インパクト評価	インパクトは今まで特に考えてきていないためしっかりと社会的に認められるようにしていきたい

※支援内容・期間等については、詳細面談後に決定させていただきます。

団体財政状況について

前期決算額	4,425,730円	
事業費	4,425,730円	(100%)
管理費	0円	(%)
委託費	0円	%
受入寄付額	723,741円	
負債	0円	

当該プログラムへの申請理由

災害対応準備理由	申込み経緯(考えている災害リスクや自団体が災害に取り組む必要性、所在地域での役割や、他地域での活動の有用性など)	
	現在大きく念頭にあるのが南海トラフ地震です。やはり規模的に見ても非常に甚大な被害が想定され、広範囲広がる災害の為、より多くの備えが必要であると考えております。そのため迅速に被災状況の確認や必要としている支援などの情報収集や迅速に支援に入る体制を整えることが大切であると考えております。また災害が発生してから対応を整えていると初動が遅れるため、平時から災害対応準備をおこないいつでも対応できる体制が必要であると思っております。	
想定する災害時の活動	対象地	事業内容
	災害発生地域全般	・災害救援プランを作成し、迅速に対応できる体制を整える ・平時から様々な団体との情報共有や交流を持つことにより緊急時の動きが迅速に対応できるよう体制を整える

災害対応準備完了後の活動の見通しについて

活動意向	活動予定内容	資金調達について
団体所在地内における災害	炊き出し支援・避難所運営支援・食材支援・こども相談・遊び場支援 家屋解体・泥出し	自己資金・寄附金 クラウドファンディング
隣接県での災害	炊き出し支援・食材支援・こども相談・遊び場支援 家屋解体・泥出し	自己資金・寄附金 クラウドファンディング
遠隔地での災害	炊き出し支援・食材支援・こども相談・遊び場支援 家屋解体・泥出し	自己資金・寄附金 クラウドファンディング

支援終了後に期待する効果、将来像、ビジョンなど

現状の団体の状況に合わせた規程類を整備することにより信頼度の向上につとめ、緊急時に迅速に休眠預金を活用し、当団体の強みであるすでに準備されている資機材や食品などの迅速な提供や展開を実施することができるようになる。 さらに当団体は常に災害に備えるため防災倉庫を作り、多くの資機材を収納しているが、その維持にも大きな費用がかかる。災害が発生してからでは資機材を集めるのも難しいため常に常備しておく必要があり、将来的には休眠預金を活用して常時維持管理して、発災時にも困らない体制づくりを目指す。 社会的インパクト評価の面でも現在は休眠預金事業は未経験であるため、休眠預金事業に備えて勉強して質の高い事業計画を立てられるようになりたい。 今回の事業を通して、認定NPOを目指して法人基盤を確固なものとしたい。 信頼される団体になることにより行政機関や他支援企業や災害救援団体などとの連携が取りやすくなり、発災時にお互いが迅速に協力できる関係性を構築しやすくなると考えている。現在、行政や社会福祉協議会とは防災協定などの話しも少しづつできてきている状態であり、その関係を維持・強化するためにも継続的な支援ができる体制を人的、設備面でも整えておきたい。休眠預金等の資金を活用した迅速な支援体制や行政や社協とのつながりを他の県のモデルにしていきたい。
